

2023年12月4日

中東関係者各位

九門康之

「中東なう」(旧中東レポート) 2023年11月号

中東動向の短信レポートです。

中東関連の報道はガザのハマス・イスラエル衝突が大部分を占めているが、そのような中でも、地域動向が垣間見られる動きをいくつかピックアップした。

1. リビア、エジプトとトルコにビザなし渡航を認める

リビアはエジプト人とトルコ人にビザ無しでの渡航を認める。1960年代当時よりリビアは親エジプト国で、エジプト人の出稼ぎ労働者が多い。トルコとは、2011年の「アラブの春」がきっかけとなり、首都トリポリをイスラーム勢力が掌握したことから、関係が親密化した。その後のリビア国内の東西対立では、西のイスラーム勢力をトルコが、東の世俗勢力をエジプト他が支援した。現在、リビア国内勢力が利害を調整して国を運営しようとしていることが、この動きから感じられる。

2. アラブ首長国連邦(UAE)、全方位外交を進める

UAEが全方位外交を進めている。欧米日諸国との友好関係を継続すると同時に、中国やロシアとの関係も維持・拡大することで一方向に偏らない運営を目指している。最近の例では、アエロフロート(ロシア)のアブダビ直行便を再開、金融面で中国と通貨SWAP契約(金額49億ドル、機関5年)を締結した。ガザでの衝突の後もイスラエルとの関係に大きな変化はない。

このようなUAEの姿勢は、同じ湾岸の産油国カタールが行ってきた独自外交と似ている。カタールの場合は、独自姿勢により地域内外でのプレゼンスを高めることが目的であったが、UAEはすでにエネルギーや経済で一定の地位にあり、これを強化する狙いがあると思われる。

3. 湾岸産油国での交通インフラ投資の動き

交通インフラ投資へ投資が拡大している。ドバイは、2009年に開業したメトロ交通システムを拡充する新線(名称:ブルーライン)計画を発表した。また、ドバイ国際空港の発着便数をさらに拡大も検討されている模様。同空港はすでに世界最大級の旅客を取り扱っている他、ドバイ市郊外には大型のマクトゥーム国際空港がある。

地域を結ぶ交通インフラとしては、サウジアラビアがアラビア半島横断鉄道計画(The Land Bridge project)を進めており、現在資金調達(金額266億ドル)を準備中である。国

をまたぐ案件としては、バハレーンとカタールが両国を結ぶ海上橋（causeway）を計画している。本計画は、2017年～2021年のカタールボイコットにより中断していたが、両国の関係改善により復活した。

➤ その他の動き

●エジプト、ガソリン価格を値上げ●カタール、中国と LNG 輸出長期契約に調印●イラク、中央銀行がクレジットカードを利用したマネーロンダリングに警告●サウジアラビア、2030年万博開催地に●トルコ、イラクからの石油輸入再開を協議●UAE、COP28 記念紙幣を発行●

ご参考：情報収集手法

本レポートは、主に中東各国の電子メディアを継続してモニターして得た情報を材料にしています。マクロ経済・金融統計数値の出所は、IMF、地場中央銀行統計等です。コメントは筆者の個人的見解です。

以 上